

..... 編集後記

◆年が明けたと思ったら、あっと言う間に2月の声を聞きます。1月は往ぬ、2月は逃げる、3月は去ると言いますが、時の流れの早さに我ながら驚いています。皆さんはどうですか。

◆先日、サイエンス・キャンプ(高校生)の成果報告会が開かれました。地質調査所のサイエンス・キャンプは小玉所長の積極的な協力もあり成功裏に終了しましたが、参加した各研究所でも理科離れの防波堤の役割を果たしたようです。科学技術庁では、新しく中学生コースおよび先生コースの新設を考えているようです。

中学生コースは小子化により親が子離れをしてない今日では地域単位で実施するのが適当ではないかと発言しておきました。先生コースについては、教育現場からの強い要請もあり、地質調査所でも産学官連携推進センターの組織強化にともない先生コースの開設を計画していましたので、賛成しておきました。多分、来年度から始められると思いますので、多くの先生の参加を期待しております。

◆地質調査所では国内のみならず、海外においても色々な協力事業を展開しております。今月号は海外

活動で得られたモンゴル、韓国およびオマーンの資源地質事情について紹介記事が掲載されていますので、ご一読ください。

◆モンゴルについての私の知識は、広い草原と遊牧の民の国ぐらいですが、東アジア最大の露天掘りの銅山があるとは知りませんでした。また、モンゴルでは地質屋の社会的地位が高く「ジオロジストの日」が制定されており、日本人研究者がこのたび「最高地質勲章」を授与されたことは、大変喜ばしいニュースです。日本国内でもこのような社会的評価を再現したいものです。

◆地球温暖化にともなって海水準が上がり沿岸浸食などの海岸地形への影響が心配されています。この問題の解決法を考えるのは沿岸工学屋の仕事かもしれませんが、工学の腕力だけでは自然現象の制御はできないことは過去の事例から明らかだと思います。

自然力と調和のとれた沿岸工学を完成させるためには、地質屋独自の目で見えた沿岸地形の形成機構についての知識が必要です。北海道の海跡湖の記事をご参照下さい。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

| | | | |
|-----------|---------------------------|-------|-----|
| 地質ニュース | 第534号 | 1999年 | 2月号 |
| | 定価¥785(本体価格¥748) 千実費 | | |
| 1999年2月1日 | 発行 | | |
| 編集 | 工業技術院地質調査所 | | |
| 発行人 | 株式会社 実業公報社 | | |
| | 代表者 林 光生 | | |
| 発行所 | 株式会社 実業公報社 | | |
| | 東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073 | | |
| | Tel. (03) 3265-0951(代表) | | |
| | Fax. (03) 3265-0952 | | |
| | 振替口座 00110-6-32466 | | |
| | 越川局私書箱第21号 | | |
| 印刷 | 株式会社 エアフォルク | | |

©1999 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。